

案内書

第67回日本生物工学会大会 附設
機器・試薬・書籍等
展示会

環境問題
食糧問題
医療問題
エネルギー問題

期 日

2015年10月26日(月)・27日(火)・28日(水)

会 場

鹿児島県/城山観光ホテル

(鹿児島県鹿児島市新照院町41番1号)

●主催

(公社)日本生物工学会

大会実行委員長 酒井 謙二

(九州大学大学院農学研究院 教授)

●運営管理/申込先

株式会社 エー・イー企画

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4 岩波書店一ツ橋別館4F

電話 03(3230)2744(代表)



大会開催のご挨拶

各位 殿

謹啓 貴社にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は日本生物工学会の諸事業に格別のご高配、ご支援を承賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、第67回日本生物工学会大会は、平成27年10月26日（月）～29日（水）、鹿児島市において開催されます。今回の鹿児島大会は、眼下に鹿児島市内を一望し、眼前には桜島を臨む城山観光ホテルにてセッションのすべてを開催いたします。大会の中心となる一般講演（ポスター発表、総数約700の講演枠）の会場は、展示と休憩場所を含めた一会場にまとめ、展示に多くの参加者が集まるようにスペースやレイアウトを工夫いたしました。

シンポジウムは「ものづくり・バイオを開拓する若い力」を統一テーマとし、新たな切り口の醸造・発酵、環境保全や代謝工学、物質変換など、若手の研究者の提案を中心に構成しました。もちろん、焼酎醸造やバイオ製品の開発経験など、次世代の開拓への指針として若手が学ぶべきセッションも加え、4会場で並行開催いたします。

鹿児島県は本土最南端に位置し、霧島や桜島などの自然、個性ある歴史・文化に加え、豊富な温泉などの多彩な観光資源に恵まれています。現在では関東以北からも新幹線で繋がりました。特に発酵屋から見たときには、「焼酎の聖地」としても位置づけられますが、「本格イモ焼酎」のほかにも「黒牛・黒豚」や「さつまあげ」など、特産品もバラエティに富んでおり、懇親会でもお楽しみいただく予定です。

現在、九州支部メンバーで構成した大会実行委員一同、円滑で活気のある学会運営を行うよう全力を挙げて準備を進めております。このビジネスと交流のまたとない機会を生かして頂くために、本大会への御出展を是非ともお願いしたく存じます。

なお、展示運営業務に関しては株式会社エー・イー企画に依頼しております。お問い合わせ・お申込みは、同社宛に直接ご下命下さいますようお願い申し上げます。

謹白

平成27年3月

第67回日本生物工学会大会

実行委員長 酒井 謙二（九州大学大学院農学研究院）



シンポジウム課題は下記の通りです (出展の参考にして下さい)

① 焼酎の製造・歴史、アルコールの効能そして飲用の楽しさを伝える(九州学生本格焼酎プログラム)

水光正仁(宮崎大学)

1980年以降のいも焼酎、米焼酎、麦焼酎等のそれぞれの蔵元による品質競争の結果、2007年の本格焼酎の消費数量は1980年比で約6倍と発展した。ところが、ここ数年アルコールのマイナスの側面ばかりにスポットがあたるようになり、若者のアルコール離れは深刻である。本格焼酎と九州は密接な関係にあり、九州の大学生や消費者向けに、焼酎の製造/歴史、アルコールの効能等を伝えるために、九州学生本格焼酎プログラムを実施している。今回、その活動の一環として会員および市民を対象に本プログラムを実施する。

② 食品のおいしさを極める生物工学

今井泰彦(キッコーマン)

食品の「おいしさ」は食品が持つ大きな機能の一つであると考えられる。そして最近では、様々な手法により、身体の生理的变化、希求メカニズムの研究や、実際の食品への展開を図る試みがなされている。この「おいしさ」の研究成果は製品(食品)に適用してはじめて価値を生み出せる、まさに産学官連携が必要な分野である。そこで、食品の「おいしさ」に関わる研究について、最近の取り組みを紹介してこの分野の研究と産学官連携の一層の活性化を図ることを目的とする。

③ 若手研究者が提案する動物細胞一つずつを加工・品質管理する技術

山口哲志(東京大学)、境慎司(大阪大学)、加藤竜司(名古屋大学)

昨年末に施工された再生医療関連2法において細胞加工業の産業化が急速に進展しつつある。このため、再生医療のための細胞加工技術を担う生物工学への関心が非常に高まっている。特に、付加価値の高い高精度な製品の安心・安全な供給のために、一細胞レベルで加工・品質管理する技術が注目されている。そこで、細胞加工・品質管理に資する一細胞レベルの細胞操作・評価法を開発している若手研究者が最新の研究成果を報告し、将来展望や期待についてシニアのオブザーバーとともに熱く意見交換する。

④ 抗体工学の新潮流: シーズからニーズへ

中野秀雄(名古屋大学)

本シンポジウムにおいては、その取得方法、合成方法、利用方法などに関し、従来法とは異なる切り口で取り組んでいる大学・企業の研究者に講演を依頼し、抗体をめぐる新たな研究・動向について議論する。より具体的には、バイオセンサー分子としての人工抗体、化学変換ツールとしての触媒抗体、大量安価な抗体合成方法などである。

世話人以外、鹿児島大学 伊東祐二 教授、大阪府立大学 藤井郁夫 教授、東京工業大学 上田宏 教授、化学及血清療法研究所(演者調整中)の講演許諾を頂いている。

⑤ バイオ界面における要素技術から展開する新たな生体分子工学

神谷典徳(九州大学)、堀克敏(名古屋大学)、梅津光央(東北大学)

バイオインターフェイス・界面生物工学研究部会では、生体を構成する様々な分子と、それらが集積して機能を発現するバイオインターフェイスのデザイン・構築・制御を扱っている。本シンポジウムでは、生体分子工学の視点から、産業利用に資する組換えタンパク質の発現系と機能性タンパク質の加工技術について、当該分野のイノベーションにつながる最新の研究成果を、産学の一線で活躍する研究者から話題提供を頂き、活発な議論を展開する。

⑥ アジアにおける最新バイオリファイナリー研究

花井泰三(九州大学)

バイオリファイナリーとは、再生可能な資源であるバイオマスを原料として、バイオ燃料や化成品原料を製造する技術である。本シンポジウムでは、日本のバイオリファイナリー研究者と中国のバイオリファイナリー研究者との交流をはかり両国のバイオリファイナリー研究の相互推進を行う目的に、両国でバイオリファイナリー研究を行う研究者を講演者として、第67回日本生物工学会シンポジウム枠内で開催を行う。

⑦ 次世代バイオ医薬品生産を切り拓くバイオエンジニアリングの新展開

大政健史(徳島大学)、上平正道(九州大学)

日本医療研究開発機構(A-MED)の注目すべき開発プロジェクトとして、次世代のバイオ医薬品生産プロセスを開発・統合化する、国際基準に適合した次世代抗体医薬等の製造技術プロジェクト(経済産業省主管)が平成25年度からスタートしている。本研究プロジェクトは、25社、2大学、3機関、再委託先13大学を含めて40機関以上が参画し、さらに文科省、厚労省で関連プロジェクトがスタートする等、これまでにない大規模での産官学共同研究開発である。本シンポジウムでは、このプロジェクトにおいて展開されている次世代バイオ医薬品製造に向けたバイオエンジニアリングを中心に、本分野の最新の知見を討議し、今後の産学連携、産業界への貢献、さらには本分野の将来像を討議したい。

⑧ 魅力ある商品を支える醸造技術

高下秀春(三和酒類)

発酵食品は、お客様の生活に潤いを与え、楽しく豊かな生活を実現するための一役を担っている。お客様に支持されている発酵食品(商品)には魅力があり、その魅力を支えているのが醸造技術である。本シンポジウムでは、ものづくりの醍醐味も合わせて産業界のシンポジストからヒット商品に秘められた技術開発について講演していただく。産業界のニーズ把握の考え方については他業界にも参考になる。

⑨ 熟成の微生物科学～生物化学工学研究分野の新展開～

石井正治(東京大学大学院)

高い増殖能や物質生産能を有するため、微生物を利用したものづくりにおいては、「速さ」が志向されてきた。しかしながら、発酵・醸造物の製造過程、土壌が生成される過程、有機物の嫌氣的分解過程など多くのプロセスにおいて、微生物代謝機能の「緩慢な」発現(≒熟成)が必須となっている。そこで本シンポジウムでは、熟成を微生物学的かつ包括的に捉えていく。産学連携的に展開している研究紹介も含め、ものづくりを含めた微生物の応用的研究領域としても、基礎研究の対象としても、熟成が大きく広がっていく可能性を示す。

⑩ バイオニアに学ぶイノベーションのつくり方～産業界若手研究者が知りたい生物工学のマイルストーン～

小高敦史(月桂冠株式会社)、増田康之(菊正宗酒造株式会社)

生物工学分野においても新しい満足を生み出すための技術開発が盛んに行われている。本シンポジウムでは、基礎的な研究から実用化を経て、本当に「市場を切り拓いた」と呼べるような研究開発事例を紹介する。最近の事例に加え、すでに広く知られた製品(技術)についても改めてその開発の舞台裏を取り上げることで、様々なイノベーションのつくり方を学ぶ機会としたい。

⑪ 動物細胞工学における非侵襲的細胞性状計測法の紹介

高木睦(北海道大学大学院工学研究院)

医療診断プロセスならびに医薬品生産や再生医療など産業プロセスにおいて動物細胞は中心的な要素であるが、その動物細胞の種類や活性などを、その場で非破壊的、非侵襲的に短時間で計測する技術は、ほとんどなかった。しかし近年の光学的手段や情報処理手法の進歩に伴い、動物細胞性状の種々の非侵襲的計測手法が提案されている。本シンポジウムでは、これらの手法を紹介し活発な活用を促すとともに、さらなる手法改良についても議論する。

⑫ 生物工学的手法を活用した海洋環境・生物多様性資源の新規評価軸構築

菊地淳(理化学研究所)、田中剛(東京農工大学)

今世紀中ごろには世界人口は90億人に達し、特に急激に台頭する新興国の食と資源の利用は大きな問題になると予想されている。前世紀の陸(地下)資源に依存した工学からのパラダイムシフトは、海洋資源の持続的利用に求めることができる。特に日本近海は広大な上に生物多様性のホットスポットであり、本学会が担い得るイノベーションの可能性も広大である。シンポジウムでは、細菌や藻類、魚類などの海洋生物資源の各専門家より遺伝的・機能的多様性を紹介して戴き、これら魅力的な海洋生物資源からの新産業創出への道筋を模索する。

⑬ 二次代謝産物の生合成工学が切り拓く合成生物学の世界

濱野吉十(福井県立大学)、荒川賢治(広島大学)

ポストゲノム時代の今、二次代謝産物の生合成研究は急速に発展しており、人為的な生合成改変、非天然型新規化合物の創出、コンビナトリアル生合成による化合物ライブラリーの構築、制御因子・低分子エリクターなどによる二次代謝の人為制御、希少有用物質の安定供給など合成生物学的アプローチが実用的なレベルに達しつつある。これら二次代謝産物の生合成を基軸する合成生物学の研究においては、生合成経路・酵素反応の解明が前提であり、本シンポジウムでは、これら研究の最前線を提供する。

⑭ 培養・計測技術はここまで来た！

北川泰(アサヒフード&ヘルスケア)

生物工学的手法によるモノづくりは培養計測・制御技術を中心とした手法を駆使し、商業的国際競争力を得て初めて社会に還元される。本シンポジウムでは、原点に回帰し、培養・計測の新技术を学界および産業界の第一線のシンポジストからご講演いただく。新技术と実用への課題および展開に関するディスカッションは、発酵産業の商業的発展に向け、産学連携を介した公益に繋がることが期待される。

⑮ カロテノイドのバイオテクノロジー——世界をリードする商業生産と研究開発——

三沢典彦(石川県立大学)

21世紀に入り、緑藻や細菌の効率培養によるアスタキサンチンの商業生産が日本企業により開始されるなど、バイオテクノロジーによるカロテノイド生産が注目を集めている。一方、遺伝子組換え微生物・植物によるカロテノイドの代謝工学研究も精力的に行われている。本シンポジウムでは、バイオテクノロジーによるカロテノイドの商業生産や研究開発について、企業や大学の講師に最新情報を提供してもらい、現状と展望を議論する場としたい。

⑯ スマートプロテインデザイン：産業化にむけた蛋白質工学

上田宏(東京工業大学資源化学研究所)

近年、蛋白質に関する基礎研究成果が蓄積されつつあるにもかかわらず、その応用分野は、酵素や医薬品、食品等に留まっているのが現状ではないだろうか。そこで、本シンポジウムでは、次世代の蛋白質工学として、高機能で有用な蛋白質の設計・開発・応用を目指した「スマートプロテインデザイン」を掲げる。基礎から応用まで様々な研究者が一堂に会することで、蛋白質工学から社会への貢献を目指す新潮流を起こしていきたい。

⑰ 若手研究者が切り拓く合成代謝工学による有用物質生産のための新しい技術紹介と実用化への挑戦

大津厳生(奈良先端科学技術大学院大学)

代謝工学は、有用化合物生産に挑戦する上で重要な研究開発戦略の一つである。本シンポジウムでは、発展が著しい各種オミックス技術(独自のコア技術)を駆使して、1代謝を画期的に強化した微生物の育種や、2近年の潮流となっている『生命のロバスト性』をより深く理解し制御した微生物の育種、これらの知見を利用して3合成代謝工学による有用化合物生産について紹介する。大学・産業界の幅広い分野の研究者・技術者に「ひらめき」を与える有益な情報を提供する。

⑱ 安全な水・大気・土壌環境づくりのためのバイオセンシングと実用化に向けての取り組み

黒田章夫(広島大学)

安全で快適に暮らせる水・大気・土壌環境づくりは、生物工学会の重要な使命の一つである。環境リスクを削減し、安全な環境を確保するために必要なセンシングをバイオの側面から切り込んだシンポジウムを開催する。アスベストや花粉等の大気環境測定、土壌の肥沃度を計測する新技术、農業用水に含まれる放射性セシウム濃度の予測、IT技術と連動させたスマート水質モニタリング等、いずれも産学協同の研究を集めたシンポジウムを開催する。

⑲ ヒト腸内フローラ研究の世界展開とバイオインダストリーへの貢献

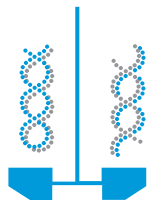
中山二郎(九州大学大学院農学研究院)

100種100兆個を超える細菌が宿ると言われるヒト腸内フローラの超複雑な構造の全容が近年の技術革新により分かりつつある。次なる研究課題は、それらの体内における機能と健康への影響、そして個人間のバリエーションである。その中で、国際的研究により腸内細菌叢のデータベースを整備し、また疫学調査を進めることは大変重要である。我が国でも、アジア乳酸菌学会連合を母体としたAsian Microbiome Project (AMP)やJapanese Consortium for Human Microbiome (JCHM)といった国際プロジェクトが進行している。本シンポジウムでは、その2プロジェクトの共催で、プロジェクトのこれまでの研究成果や今後の研究の展開、そして世の中にその研究成果をどのように還元していくかについて話題とする。海外および民間からも演者を招き、多方面からのシーズとニーズについて議論する。

⑳ 若人よ世界に飛び出せ、そしてはばたけ！

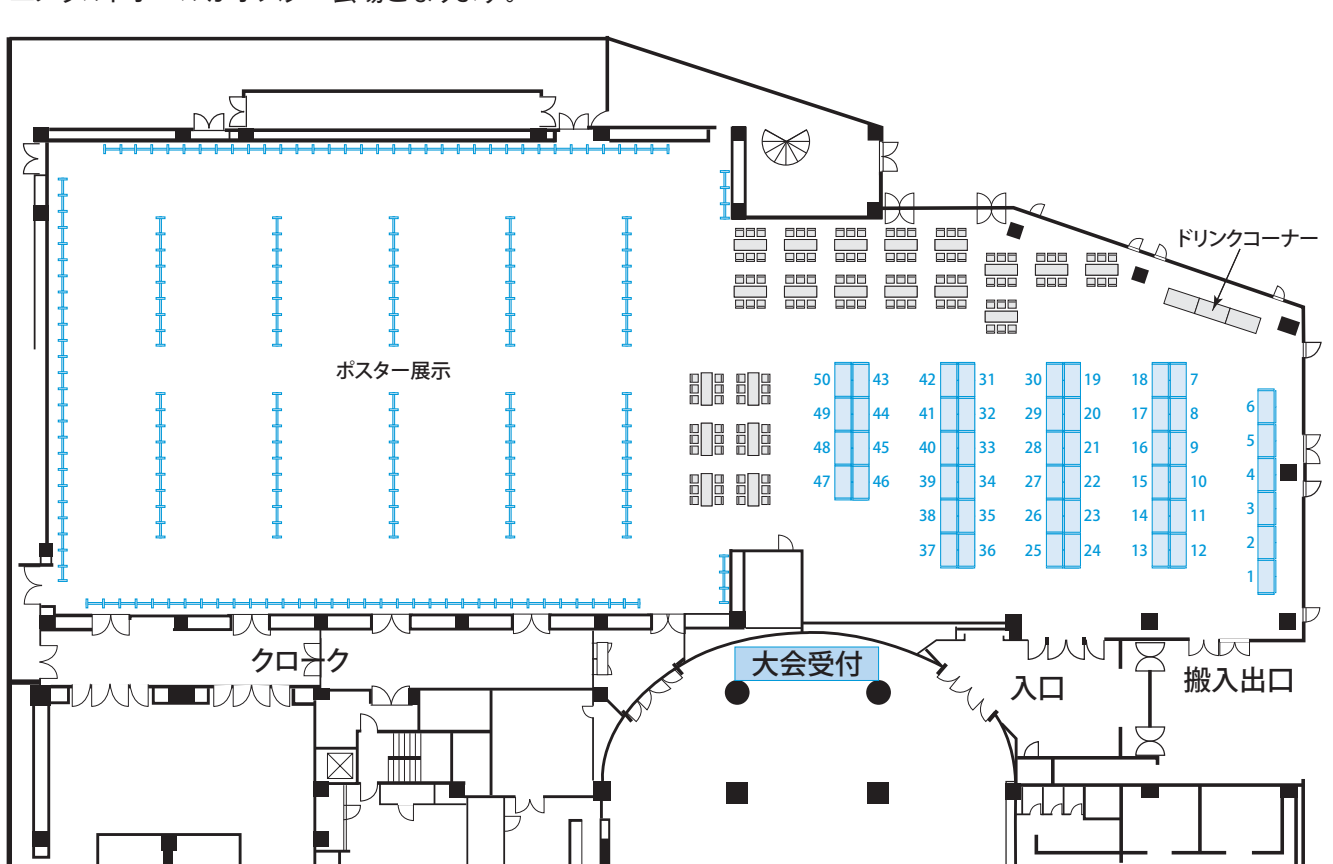
榎原陽一、井上謙吾(宮崎大学)

若手研究者育成の観点から、最先端研究に触れ、自らが行った研究成果を世界へ発信する経験を持つことは必須である。生物工学会では、飛翔賞を設け、優秀な学生への研究奨励を行っている。本シンポジウムでは、飛翔賞歴代受賞者、中堅の研究留学経験者、企業での国際展開経験者を講師に迎え、世界を舞台にしてグローバルに活躍するためのキャリアパス(企業を含める)を紹介し、若手が担う「次世代の(または世界的視野の)生物工学研究」について考える契機を与える。



展示会場小間割図（予定） （城山観光ホテル・エメラルドロビー）

エメラルドホールがポスター会場となります。



● 学会では下記のような一般講演が行われます。

技術分野		対象	
分野			
遺伝学、分子生物学 および遺伝子工学	分類、系統、遺伝学 遺伝子工学	原核微生物 真核微生物 酵母 糸状菌 アーキア	システムバイオロジー ナノバイオテクノロジー マイクロアレイ ゲノミクス プロテオミクス
酵素学、タンパク質工学 および酵素工学	酵素学、酵素工学 タンパク質工学 抗体工学	特殊環境微生物 光合成微生物 藻類 植物細胞 植物細胞	メタボロミクス ケミカルバイオロジー バイオイメーキング PCR 分子育種
代謝生理学・発酵生産	発酵生理学、発酵工学 代謝工学 オミクス解析	植物 動物 有機酸 乳酸 脂質	情報 情報伝達 培養制御 固定化 分離、精製
醸造・食品工学	醸造学、醸造工学 食品科学、食品工学	糖、糖鎖 核酸、ゲノム プラスミド、ファージ RNA、RNAi 生理活性物質	組織培養 組織、器官 医薬、医薬品 食品 免疫
環境バイオテクノロジー	環境浄化、修復、保全技術 環境工学、排水処理技術 バイオマス、資源、エネルギー工学	抗生物質 アミノ酸 ペプチド 生体高分子 タンパク質	ロボット 生態工学 CO ₂ H ₂ エタノール
生物化学工学	生物化学工学 培養工学、 バイオプロセス	抗体 酵素：糖質関連 酵素：ペプチド・ アミノ酸関連 酵素：脂質関連 酵素：その他	難分解物質 生分解物質 廃棄物 水 土壌
植物バイオテクノロジー	植物細胞工学、組織培養、育種工学		
動物バイオテクノロジー	生体医用工学、人工臓器 セル&ティッシュエンジニアリング		
バイオ情報	生体情報工学、バイオインフォマティクス システムバイオロジー		
センサー計測技術	センサー、計測工学 バイオセンシング、分析化学		
生体関連化学	有機化学、高分子化学 生合成、天然物化学		
生体分子工学	核酸工学 ペプチド工学 脂質工学 糖鎖工学		

● 学会参加人数（昨年）1,600人



出品要綱

会 期

2015年10月26日(月) 12:00 ~ 18:00

10月27日(火) 9:00 ~ 18:00

10月28日(水) 9:00 ~ 16:00

※予定です。

会 場

城山観光ホテル・エメラルドロビー

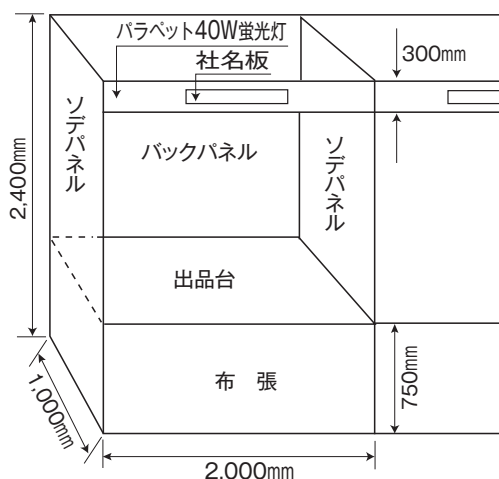
(鹿児島市新照院町41番1号)

小間規格と出品料金

◆ Aタイプ(機器・試薬等)

216,000円

(小間料金¥200,000+消費税¥16,000)



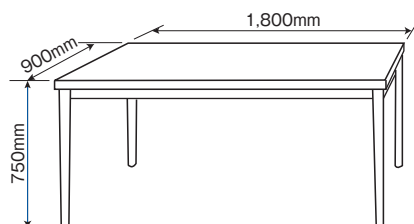
- ◎ 小間サイズ: W2,000×D1,000×H2,400mm
- ◎ セット内容: バックパネル(蛍光灯40W、社名板付)、イス1脚、出品台(W1,800×D900×H750mm、白布にて台上を覆い、腰は青色系の布で覆います)
- ◎ システムパネル(オクタノルム式)を使用
(白系ビニールコーティング合板システム)
釘打ち、穴あけ、ピン等の取付け、表具等の加工はできません。
パネル等の取付けは、専用チェーンにてお願い致します。
- ◎ パネルの色変更は、カッティングシートにて可能です。
事前にご連絡ください。

◎1小間当たり1名様親会に招待いたします。

◆ Bタイプ(書店、出版社のみ)

32,400円

(小間料金¥30,000+消費税¥2,400)



- ◎ 小間サイズ: 出品台のみ
- ◎ セット内容: 出品台(W1,800×D900×H750mm、白布にて台上を覆い、腰は青色系の布で覆います)
社名板付、折りたたみイス 1脚

電力料金

(料金には消費税が含まれております)

電力(100V)ご使用の場合、電源仮設工事費および消費電力料金は出品者の負担になります。料金は下記の通りです。

500Wまで/¥32,400 501W以上1KWまで/¥37,800

※ ただし、1KW以上ご使用の場合は、1KW増すごとに¥16,200を加算させていただきます。

※ 200V(三相・单相)をご使用の場合は、別途仮設となり割高になりますのでご了承ください。料金は会期後にご請求いたします。

出品申込方法

- (1) 申込方法 規定の申込書(別紙)に必要事項をご記入の上、Faxかメールにてお申込みください。
- (2) 申込締切日 **2015年7月24日(金)**
※小間数に制限がありますので、お早めにお申込みください。
- (3) 申込先 **株式会社 エー・イー企画**
第67回日本生物工学会大会展示会係 担当：関根一成・西尾文利
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4 岩波書店一ツ橋別館4F
電話 03-3230-2744(代表) FAX 03-3230-2479
E-mail : sbj@aeplan.co.jp
- (4) 振込銀行 みずほ銀行 九段支店 普通 1634577 生物工学67展示会事務局

小間の割当て

出品申込みを受付後、出品物の種類・形状・重量・小間数などを考慮の上、出品者にご通知申し上げます。出品者説明会は行いませんのでご了承ください。

出品の取消し

出品申込書の提出後は、学会事務局が不可抗力と認めた事故以外は取消しはできません。したがって出品料金の返却はいたしませんのでご了承ください。

展示出品台

基礎小間に既設出品台が付いておりますが、床面に直接機器類を設置したい場合は申込書に出品台不要のご記入をしてください。

なお、展示出品台の有無の変更は搬入日の2週間前までにお申出ください。

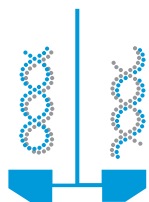
出品物の管理

各出品物の管理は出品者が責任をもつものとし、展示期間中の出品物の盗難・紛失・火災・損傷など、不可抗力による出品物の損害に対して、補償などの責任は一切負いませんのでご了承ください。

出品物の搬入・搬出

細部につきましては、後日出品者にご通知申し上げます。

搬入	2015年10月26日(月)	8:00 ~ 12:00 まで
搬出	2015年10月28日(水)	16:00 より



会場案内図

城山観光ホテル周辺

鹿児島市新照院町41番1号

車をご利用の場合の所要時間

- ・鹿児島空港→高速道路→ホテル 約40分
- ・鹿児島中央駅→ホテル 約10分
- ・天文館(鹿児島一の繁華街)→ホテル 約10分



- 電車(新幹線)をご利用の場合は、鹿児島中央駅(西口)から無料巡回 城山シャトルバス(約35分)をご利用いただけます。詳しくはホテルのホームページをご覧ください。

2015年度 日本生物工学会大会 展示会

出展申込書

2015年 月 日

出展社案内のホームページや、出品目録で英文併記しますので、お手数ですが必ず下記項目をご記入ください。

会社名	和文		
	英文		
ご連絡先	和文	住所 〒	
		TEL.	FAX.
	英文	住所	
		TEL.	FAX.
ご連絡先 E-mail Add			
ホームページ URL			
ご担当者名			
担当部署名			

申込小間数	使用電力量	展示出品台
() 小間	100V()W 200V()W (単相・三相)	() 小間必要 () 小間不要
出品料金	電源仮設料金	

展示出品物	寸 法			重 量 (kg)	点 数
	幅(mm)	奥行(mm)	高さ(mm)		

申込締切日：2015年7月24(金)